

2014年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	日本語表現法応用 I						
科目区分	リテラシー科目	単位数	1単位	開講時期	2年次前期		
必修・選択の別	【建築工学コース:必修科目】【建築コース:必修科目】【デザインコース:必修科目】						
担当者	萬川正勝						
授業の到達目標 (シラバスから)	<p>教材:名古屋大学日本語表現研究会著『日本語表現法 書き込み式』(三弥井書店)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の特性を正しく理解し、使うことができる。 ・日本語の文法を理解し、正しく使用できる。 ・論理的な表現とは何かを理解し、記述・発表できる。 ・上記のような項目を学習し、日本語表現の応用力を修得する。 						
:	<p>第1回:講義概要および履修心得・学習方法 第2回:話し言葉と書き言葉 その1 第3回:話し言葉と書き言葉 その2 第4回:書き言葉の技能 基礎 文の組立 その1 第5回:書き言葉の技能 基礎 文の組立 その2 第6回:書き言葉の技能 基礎 文の組立 その3 第7回:書き言葉の技能 基礎 呼応する言葉 第8回:書き言葉の技能 基礎 文のつながり方 第9回:書き言葉の技能 基礎 意味の限定 その1 第10回:書き言葉の技能 基礎 意味の限定 その2 第11回:書き言葉の技能 基礎 言葉の順序 その1 第12回:書き言葉の技能 基礎 言葉の順序 その2 第13回:書き言葉の技能 応用 要旨 その1 第14回:書き言葉の技能 応用 要旨 その2 第15回:まとめ 定期試験 第16回:前期まとめ</p>						
成績評価基準	定期試験	50%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習	50%					
授業到達目標の達成度	ほとんどの項目で4段階、5f段階が8割近く占めている点から、理解度はかなり高いと考える。課題は、理解したことを実際の文章表現で理解したことを生かすことができるかどうかである。						
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ○受講生が100人前後なので、小グループに分けて指導していたが、指導方法の工夫が必要がある。 ○学生たちの言語生活の実態を何らかの方法で把握する必要がある。 ○未受験者を含めた不合格者の学習意欲をどう高めていくかが大きな課題である。 						
来年度の計画	テキストが例題一解説一練習と、とても構成がよくできているので、そのテキストを生かす、動機付けをもっと工夫したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	テキストが例題一解説一練習と、とても構成がよくできているので、そのテキストを生かす、動機付けをもっと工夫したい。						
履修登録者数	98名	定期試験 受験者数	90名	合格者数	88名	合格率	98%